

TOPICS

●第7回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会

85校182名の教習指導員が 日頃の技を競い、交流を深めた



全国から182名が参加した

10月4日、5日の2日間、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて、「第7回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が開催された。この大会は、全国自動車教習所教習指導員の自己研鑽への動機付けや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に、2001年より毎年開催されている。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターは、今年8月、社会のニーズや環境の変化に合わせたより高度な交通安全教育を実施するために施設および設備が大幅に改修された。この新しい施設で、全国29都府県85校の教習所から182名(二輪111名、四輪71名)が参加した。

開会式では、大会会長である吉見幹雄・本田技研工業(株)専務取締役・安全運転普及本部部長が挨拶。「交通参加者の安全に対する意識を高めるといふ点においては、地域の交通教育センターとして教習所の果たす役割が大変大きいと認識しています。教育に実際にあたられる皆さまには、確かな運転技術に支えられた高いレベルでの指導力が求められています。この指導員大会は、さらなる指導力向上の一助となるとともに、全国からお集まりいただいた教

習所の皆様の相互交流、相互啓発の場となるべく開催しております」と述べた。

大会初日は、午前9時30分から二輪部門「ブレーキング」「パイロンスラローム」「コーススラローム」、四輪部門

「フィギア※」「ブレーキング回避」「縦列駐車・車庫入れ」の競技が行われた。さらに、午後5時40分より、今大会より初めて取り入れられた「筆記レポート」と続いた。これは、自身の知識と指導方法をあらためて振り返り、指導力の向上をはかる目的で全選手が取り組んだ。また、夜には懇親会が開かれ、選手同士が交流を深めた。



「筆記レポート」

※フィギア=スムーズな操作・走行かつ正確な車両誘導技術を競う種目。縦7m×横7mのボックス内に設けられた1カ所の枠内に方向転換をしながら指定された後輪を入れ、タイムを競う

観客の大きな声援の中 最後まで競技に挑む選手たち

2日目は、午前8時50分より、二輪部門「一本橋」、四輪部門「コーススラローム」で運転技術を競った。大会は、2日間とも晴天に恵まれ、参加選手のレベルの高い競技に、詰めかけた観客や応援団から大きな声援が寄せられた。

競技終了後には、鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターによる二輪

車の安全運転指導のデモンストレーションが行われ、運転操作の具体的なアドバイス方法を示した。また、歩行者の急な飛び出し場面を再現し、事故を防ぐにはどのような運転を心がければよいのかといった安全意識向上のための指導方法を説明した。

最後に、午後1時30分より表彰式および閉会式が行われ、二輪、四輪部門各4種目の上位6名と、各部門の総合上位6名が表彰された。

二輪部門ではドリームモータースクール須坂校(長野県)の木内俊児さんが総合1位となり、昨年に続き連覇を果たした。「自分が選手として参加することで教習生の気持ちを理解でき、わかりやすく簡潔に説明ができるようになりました。この大会は教習指導員の理想像を追求できる貴重な機会です」と木内さんは語る。

四輪部門総合1位のレインボーモータースクール和光(埼玉県)の中村真澄さんは、「目的が達成できてとても嬉しいです。免許を取得する方に安全運転を伝えるためには、自分が自信を持って指導できる高い技術と、指導力が必要です。これからも高める努力を続けていきたい」と喜びを語った。

大会運営委員長である千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長は閉会式の挨拶で「選手の皆さんが指導力向上のために日頃より技を磨き、力を蓄え、気持ちを高めて大会に臨んでいることを強く感じました。今後も改善や工夫を重ねながら、皆さまにとって少しでも多くの収穫になりますよう、より良い大会に向けて進化を重ねていきたい」と述べ、2日間の大会を締めくくった。

全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会への期待



阪奈自動車教習所
(大阪府大東市)
指導係長・副管理者
杉原 仁さん

近年は、少子高齢化に伴い教習所に地域の交通安全教育センターとしての役割が求められています。当校でも、女性向けの交通安全セミナー、小学生や園児向けの交通安全教室、教習所の1日開放など、免許を取得される方だけでなく地域の人に参加していただく活動に取り組んでいます。このような活動が今後さらに広がってくると期待しています。今大会、四輪部門で初めて参加しましたが、想像以上に参加者のレベルが高く驚きました。この大会で、指導員の技術向上を図るためには、どのような訓練、技術力が必要かを課題に情報収集を行い研究、錬磨し今後の活動に活かしていきたいと思っています。



広沢自動車学校
(徳島県徳島市)
副社長
祖川 康子さん

今大会に、初めて出場しました。当校は若い指導員が多く、指導員の育成に何か参考にできればと思います。まずは指導員を管理する立場の副管理者2名が選手として参加しました。参加者のレベルもそうですが、他の教習所の取り組み姿勢や、審判のきびきびとした動作なども若い指導員に学んでほしいと思いました。教習指導員には、いかに優良なドライバーを育成していくかが問われています。私たちが指導を通して、命の尊さや人を大切にすることを伝え、ゆとりのある心で運転できるドライバーを育てたいと思います。ハンドルを握る人皆が人を大切にしようという気持ちを持って、交通事故が減っていくのではないのでしょうか。



四輪部門「フィギア」



四輪部門「縦列駐車・車庫入れ」



四輪部門
「コーススラローム」



四輪部門「ブレーキング回避」



二輪部門「ブレーキング」



二輪部門「コーススラローム」



二輪部門
「パイロンスラローム」



二輪部門「一本橋」



二輪車の安全運転指導のデモンストレーション